

公立学校情報機器整備事業に係る各種計画

令和7年2月

伊賀市

【 三重県伊賀市 】

端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	5 7 5 6	5 5 8 4	5 4 4 4	5 2 8 1	5 1 1 8
② 予備機を含む 整備上限台数	—	6 4 2 1	—	—	—
③ 整備台数 (予備機除く)	—	5 5 8 4	—	—	—
④ ③のうち 基金事業によるもの	—	5 5 8 4	—	—	—
⑤ 累積更新率	—	1 0 0 %	—	—	—
⑥ 予備機整備台数	—	9 0 1	—	—	—
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	—	8 3 7	—	—	—
⑧ 予備機整備率	—	1 6 %	—	—	—

(端末の整備・更新計画の考え方)

全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現するため、令和2年度に「1人1台端末」と「高速通信ネットワーク」を集中的に整備し、GIGAスクール構想が推進された。学校現場では活用が進み、効果が実感されつつある。一方、1人1台端末の利活用が進むにつれて、故障端末の増加やバッテリーの耐用年数が迫るなどしており、GIGAスクール構想第2期を念頭に、令和7年度に端末を更新するため、県域での共同調達に参加し、全台の端末を更新し整備を行う。

(更新対象端末の処分について)

○ 対象台数：… 6 9 9 8 台

○ 処分方法

- ・ 小型家電リサイクル法に基づく認定事業者または資源有効利用促進法に基づく製造事業者に再使用・再資源化を委託：6 9 9 8 台

○ 端末データの消去方法

- ・ 処分事業者へ委託する

○ スケジュール(予定)

令和7年 3月 処分事業者 選定

令和7年10月 新規購入端末の使用開始・使用済端末の事業者への引き渡し

【 三重県伊賀市 】
ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合(%)

- ・総学校数 : 28校 (小学校18校・中学校10校)
- ・確保できている学校数 : 28校 (小学校18校・中学校10校)
- ・総学校数に占める割合(%) : 100%

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

※これまでのところ、課題と思われる事項はなし。

- ・机上調査 : ネットワーク構成、機器仕様を確認。
- ・スループット調査 : ネットワーク構築時にすべてのアクセスポイントから速度測定サイトを用いた調査を行っている。
- ・トラフィック調査 : 毎月ネットワーク管理事業者が、全体のトラフィック推移を教育委員会事務局に報告している。学校別のトラフィック推移についても、月1回以上確認している。
- ・セッション調査 : 集約接続しているルータにて、セッション数を定期的に確認している。
- ・CPU・メモリ調査 : 集約しているルータ、SWに関して監視している。
- ・レイテンシ調査・無線調査 : 隨時実施可能な状態にある。

※アセスメントの実施について、今後も定期的に実施する予定である。

【 三重県伊賀市 】

校務 DX 計画

校務 DX は、GIGA スクール構想の実現とともに段階を追って進めていく必要がある。伊賀市では、令和 7 年度より統合型校務支援システムを導入し、校務管理・学籍管理・成績管理・保健管理や教職員同士の情報共有のデジタル化を推進し、教職員の資質向上と事務の効率化を図っていく。例を挙げると、以下のようなものがある。

【教職員間の連絡のデジタル化】

- ・教職員のその日一日の連絡共有などをクラウド上で行うことで、朝の打合せをやめ、児童生徒と過ごす時間を確保する。
- ・会議や研修の資料、検討事項などを事前にクラウド上で共有し、一人ひとりが確認しておくことで、会議・研修の時間を短縮する など。

【教職員と児童生徒間の連絡のデジタル化】

- ・授業で活用するプリントや提示資料はクラウド上におき、児童生徒は 1 人 1 台端末で閲覧する。
- ・児童生徒に対して行うアンケートなどはクラウドを使って配付、回収して集計する。
- ・時間割や授業で使う持ち物などの連絡は、クラウド上に掲載する など。

【教職員と保護者間の連絡のデジタル化】

- ・保護者からの欠席・遅刻・早退などの連絡をクラウド上で受け付け情報を共有する。
- ・保護者への手紙や連絡など、クラウドを使って一斉配信または個別配信する など。

令和の日本型学校教育を支える校務 DX について、クラウド環境を活用し、データ連携による新たな学習指導・学校経営の高度化、校務の効率化を実現することにより、教職員の働き方改革をさらに推進していく。

【 三重県伊賀市 】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」の実現及び伊賀市が教育大綱で掲げる「一人ひとりが輝くこと 一人ひとりが心豊かで健やかに成長・自立し、共に未来を創造することをめざして」を実現するため、児童生徒の成長段階に応じて、1人1台端末を始めICT機器を積極的かつ効果的に活用し、1人ひとりの特性や学習の進度に応じた「個別最適な学び」と、互いのよい点や可能性を生かしながら共に学ぶ「協働的な学び」の充実に効果を上げているか確認しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていく。特に1人1台端末については、課題解決に取り組む学習活動の中で、考えをまとめ、発表・表現する場面で積極的に活用を進める。そして、今後さらなる活用に役立てるために、課題や資料の効果的な提示や、1人ひとりの思考を深める活動などに積極的に活用し、その活用データを蓄積していく。

2. GIGA 第1期の総括

【目標】

(1年目) 【活用推進校：成和西小学校・緑ヶ丘中学校・上野東小学校】

- ・教師、児童生徒とともにタブレットの日常的な活用
- ・さまざまな場面における活用方法の開拓
- ・タブレットPCによる「気づき」が起こる学びの効果の確認

(2年目) 【活用推進校：上記3校+上野南中学校】

- ・より効果的な活用方法の追求(各活用場面における要否の整理など)
- ・タブレットPC導入を契機とした授業改革
- ・持ち帰りを積極的に進めることで学校と家庭の学習を切れ目なくつなぐ

(3・4年目) 【活用推進校：上記4校+上野西小学校・霊峰中学校】

- ・これまでに蓄積した学習記録の活用
- ・学年や教科の境界を越えた(教科横断的)深い学びとその評価の実現
- ・GIGAスクール構想第2期に向けた見直しや整備計画 など

【成果】

タブレットPCを活用することにより、いつでもどこでも、自分自身の学びの大切な場面を写真や動画に残したり、考えたことや仲間と対話したことをカードやノートに書き込み振り返ったりしながら、自らの次の学びへつなげることができた。上記活用推進校の取組をもとに、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け「伊賀モデル」を考案し取り組んだ。授業では、課題に対して、まずは自分で考え、次に仲間と対話し、実際にやってみて振り返るというように、「個の学び」と「協働の学び」の往還ができた。家庭学習では、授業での学びの続きを家庭で行い、さらにその続きを次の授業で行った。単元全体が一つの学びのまとまりとして切れ目なくつながることにより、学習効果が向上した。

活用が進むにつれ広がってきた学校間格差については、活用推進校の実践に学ぶ機会や教職員の校内研修・交流の場を数多く設定し、質を高める研修の充実に努めた。

3. 1人1台端末の利活用方策

これまでの端末活用を促進するというフェーズから、端末活用により個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現するフェーズへと軸足を移すために、以下の取組を進める。

【GIGA 環境を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実】

- ・児童生徒の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、児童生徒が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促す取組を進める。
- ・集団の中で個が埋没してしまうことがないよう、1人ひとりのよい点や可能性を生かすことで異なる考え方を組み合わせたりよりよい学びを生み出す授業改善の取組を進める。
- ・「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、児童生徒同士であるいは多様な他者と協働しながら学ぶ具体的な取組を進める。

【GIGA 環境により実現する子どもの学習状況の的確な把握(見取り)と、個に対する丁寧な指導の工夫・改善】

- ・GIGA 環境を活用することにより、児童生徒の思考やその経過を可視化しやすくなっていることを踏まえ、授業において適切なタイミングをとらえて個別の指導・支援に生かしたり、次時の指導・支援に生かしたりする学習指導の取組を進める。
- ・外国につながりをもつ児童生徒が、一時帰国する際に端末を持って行かせ、日本語を忘れてしまわないように、海外と日本でやり取りをおこなうなど、学習支援の取組を継続して進める。
- ・病気療養児童生徒が、入院する際に端末を持ち込ませ、学校とのつながりを続けていくことで安心させるために、病院と学校でやり取りをおこなうなど、学習支援の取組を継続して進める。

【GIGA 環境下での教科指導の工夫・改善】

- ・GIGA 環境を活用し、教科等で求められている資質・能力がよりよく育成される学習指導の取組を進める。
- ・特別な支援を要する児童生徒への端末を活用した個に応じた学習支援の取組を進める。
- ・不登校児童生徒への端末を活用した授業への参加、視聴などの学習支援の取組を進める。

GIGA スクール構想第2期に向け、端末の更新を確実に行い、1人1台端末の標準仕様に含まれている汎用的なソフトウェアとクラウド環境を活用し、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持することが重要である。